



6号
1999年 春号

イグナチオ教会と 愉快的仲間たち

「もはや二人ではなく一団 (●ne) である」 マタイ19・6

春の聖イグナチオ教会は盛りだくさん

- 4月3日(土) 復活徹夜祭
- 4月4日(日) 復活祭
- 4月6日(火) 新教会工事完成
- 5月16日(日) 結婚感謝ミサ
- 5月23日(日) 幼児洗礼式

クラスとセミナーはどう違うの？

「クラス」は片方または両方とも信者の方々のための結婚講座で、「セミナー」は信者でないの方々のための結婚講座です。両方とも5ヶ月間続きます。

ところで ミサってなに？

ミサとはひとこと言え、カトリック教会で、神を礼拝し、賛美する最も大切な祈りのことです。その由来は、今から約2000年前、キリストが亡くなる前夜に弟子たちと行った「最後の晩餐」にさかのぼります。その時、パンと葡萄酒の杯を取り、十字架上の死を覚悟したキリストが弟子たちに、「私の記念としてこれを行いなさい」とおっしゃいました。その時以来、教会では毎日ミサを行っています。日曜日のミサを、特に主日ミサと呼んでいます。その他に、結婚式、お葬式などの大事なきにも行います。

ミサは「言葉の祭儀」と「感謝の祭儀」から成り立ち、聖書朗読や司祭のお話、聖体拝領(祝福)を通して、皆の心をキリストの死と復活に合わせ、全てのことを、神様からいただいた恵みとして感謝することなのです。

まもなく復活祭、教会の建物の完成ももうすぐ、楽しみです！

中聖堂(マリア聖堂)には、懐かしい旧聖堂のまるいステンドグラスがはめ込まれています。

毎年秋に行われている、結婚感謝ミサ(結婚クラス)と、結婚感謝の集い(結婚セミナー)は、春と秋に分け、春に感謝ミサ、秋に感謝の集いを行うことになりました。結婚感謝ミサとは、二人が出会えたこと、そしてそれぞれの家庭に頂いた恵みを、皆そろうて感謝するミサです。

クラス修了者だけでなく、セミナー修了者もぜひ参加して、ミサを体験してみてください。

主なトピックス

- 司祭からのメッセージ
- 特集 ちょっと役立つミサ・ガイド
- 夫婦ふたり“子供のいない夫婦”
- それって本当？
- ザビエル来日450年
- 教会からのお知らせ (別紙)



ミサによって与えられるものは、 人さまざま…

司祭のお話に関心を感じる人もいれば、参加している人たちとの一体感に心温まる思いがしたり、自分を省みる良いチャンスであったり、自分を車にたとえて週に一度ガソリンを補給すると思っている人も…。

共通点は、心を合わせて、ゆったりと自由な心で感謝の祈りを捧げて、新しい活力を頂くこと…。そうです、ミサは本当の意味で、心のレクリエーションです。

はぐく 春—育みのとき

冬が終わり、自然界は目を覚まし、生きかえります。全てが新しくなり、「育(はぐく)み」の時です。私は「育む」という言葉が好きです。「育む」とは—もともと備わっている力を引き出し、安心して、のびのびと自由に成長するのを護り、助ける—そんな感じがします。家族とは「育む」関係でつながっている人たちです。まず自分自身を、そして夫が妻を、妻が夫を、親が子どもを、子どもが親を、私が皆を、皆が私を育むことは、生きるために大切なことです。

ところが育むためには、努力が必要なのです。なぜなら全てを受け入れて初めて、育むことができるからです。私たちの毎日の生活を考えてみましょう。毎日の単調な家事、仕事、勉強、思いがけない事件の数々、そしてさまざまな起伏—喜び、怒り、悲しみ、楽しみ、憂鬱、焦り、忍耐、喪失…それが生活です。この生活を、否定的なことをも含めて、自然

皆さん こんにちは
デ・スーザです。



界が冬を受け入れるように、丸ごと受け入れる—これは、むずかしいことです。「生活を受け入れる」、それは諦めるのでも、突っ張るのでも、流されるのでもなく、悲しみを悲しみとして、喜びを喜びとして、憂鬱を憂鬱として、意識して受け入れ、それを一つの体験として、自分の中で感じ取ることです。

冬の間、枯れたように見える草木が、実はひっそりと生きていずれ芽吹くように、受け入れることによって、人は静かに育っているのです—自分の中の何かは確かになっていきます。それは、いつか自分以外の誰かをそのまま認め、育んでいく力の源になるでしょう。

春です。育みの時です。皆さん、家族の一人一人が、この意識を高め、自然界が、新芽を出すように、私たちも育っていきましょう。

ヴァレンタイン・デ・スーザ

特集

あなたもミサにいきたくなる!?

—ちょっと役立つイグナチオ教会ミサ・ガイド—



初めてのミサ

イグナチオ教会で結婚式をあげた太郎さんと花子さんは、四谷の桜もさぞきれいだろうと、思い切ってミサに出てみることにしました。

—聖堂の外で—

「早く入りましょう。遅れちゃうわ。」
「待って。教会の前で写真を一枚。」
時間に余裕があれば安心ですが、遅れても途中から入れないというわけではありませんから慌てないで。

—教会の入り口で—

「皆、何か取って行くけど、あれは？」
「私たちも、いただきますよ。」
入り口前の台に「聖書と典礼」というパンフレットがあります。その日の聖書朗読や、共同祈願などが書いてありますから、取って入りましょう。

—聖堂の中で—

「どこに座ろうか。」
「腕章をつけた方に聞いてみたら？」
どこに座ってもかまいません。分からないことは何でも腕章をつけた係に聞きましょう。

「この赤い本、何だろうね。」
「これ、きっとミサ・マニュアルよ。」
「ミサ式次第」という赤い本は強い味方。どの座席の前にも置いてあります。



● 赤い本の秘密 ●

右からめくるとミサ式次第、左からめくると聖歌集のこの本はイグナチオ教会のオリジナル。皆で唱える言葉や、歌が全部出ている優れたものです。

「あの掲示板の数字なにかしら？」
「今日の聖歌の番号じゃないかな？」
その日の聖歌は正面左右の掲示板に出ています。前もって赤い本にしおりをしておくとお便利。知らない歌の時は1番は口パクで…、2番からなら歌えるかもしれません。

「白い服を着た人が出て来たよ。」
「あら、皆立つわ。」
先唱者と呼ばれている進行係が右手に登場します。先唱者の指示に従ってください。

—司祭 入堂—

「あっ、セミナーの神父様だ！」
「いつもと違う雰囲気ね。」
入祭の聖歌、挨拶、お祈り、集会祈願と続きます。



—ことばの祭儀—

「あれ、今度は座るんだ。」
ミサはここから「ことばの祭儀」といわれ、聖書朗読、司祭の説教、信仰宣言、共同祈願と続きます。

「立ったり座ったり忙しいなあ。」
ずっと座っていても構いませんが、三つのポーズには、意味があります。



● ミサ中の3ポーズ ●

立つ…威儀をただし、自分の意志をもって、祈り、宣言する。
ひざまずく…身を低くして、心を開き、受け入れる。
座る…ゆったりした姿勢で深く考える。

—感謝の祭儀—

「祭壇に何を並べてるんだろう？」
ことばの祭儀に続いて「感謝の祭儀」が始まります。パンと葡萄酒を奉納し、奉納祈願、主の祈り、平和の挨拶、聖体拝領と続きます。

「献金袋が回ってきた、どうする？」
神への捧げものの形として、献金をするのですから、金額はもちろん、するしないも自由です。心配しないで。



「皆、おじぎしでしたよ。」
ここでは平和の挨拶を交わします。前後左右の人と「主の平和」と言ってニコニコしてください。国によっては抱き合ったり、握手したり、皆仲間という心温まるシーンです。

「聖体拝領？ 僕たちどうしようか？」
あくまで自由ですが、祝福を受けるならば、列に並んで司祭の前で軽く頭を下げると、頭に手をかざして一言お祈りしてください。目に見えない贈り物を授かったようでちょっと嬉しくなります。貴重品は持って行きましょう。



● 聖体拝領とは？ ●

キリストの体としてパンを頂くことです。ミサにはふつう聖体拝領があります。本人が望めば、洗礼を受けた方は聖体を頂くことができ、洗礼を受けていない方は祝福を受けることができます。

—司祭 退堂—

「ああ、これで終わりか。」
「なんとか大丈夫だったわね。」
退堂する際は、祭壇に向かって一礼してから帰りましょう。

—聖堂の外で—

「たまにミサに出てみるのもいいねえ。意外とリラックスできて、なんか気持ちがいい気がする。」
「明日から、また始めようって言う感じね。ミサって、よく分からないけど、きっと自然と慣れていくものなんじゃない？来て良かったわね！」

初めてのミサでちょっと焦った太郎さんと花子さんですが、何か満足そうです。

伝言

ミサの時間は別紙の「教会からのお知らせ」を見てください

夫婦ふたり

前回のアンケートで目にとまったのがお子さんのいないカップルからのお答えでした。その一人である立花薫子さん(仮名)に、「子供いない歴」3年の編集員がお話を伺いました。

立花：私どもは結婚して10年経ちます。二人ともすぐに子供が欲しいと思って、授かるのを心待ちにしておりましたがなかなか恵まれず病院に行き、2・3年かけて検査・治療をしました。結局、子供を授かる可能性はゼロということになりました。

編：二人で話し合って病院へ行かれたのですか？

立花：そうです。将来的に子供が持てるのか不安な状態が嫌でしたし、医学的な結果を知ることが助けになると思っています。

編：そうですね。赤ちゃんを待つあまりノイローゼになる人もいますね。確かに辛いけれど、現実を知る勇気は必要かもしれないですね。

立花：本当、勇気がいりましたよ！ でも私は子供を持つことを夢見て結婚したところもあるので、事実を知りたい一心でした。現実を知った時、二人とも大変ショックを受けましたが、心の痛みを抑えながら時間をかけて今後の二人のライフスタイルを話し合いました。5・6年はかかりましたね。頭では現実を解っても、心では受け止められない。しかも、毎日の生活は一見今まで通り続く。葛藤があったし、何度も夫婦の間がギクシャクしました。

編：友人のほとんどに子供が産まれて、最近、私、皆と話が合わないんです。

立花：私にもそういう時期がありましたよ。寂しいな、と思って友人に電話をすると子供の泣き声が聞こえてきて、「ごめんね、忙しい時に」なんて慌て



て電話を切って、後で虚しいやら、羨ましいやら。そこで落ち着き始めていた夫婦関係もまた振り出しに戻ってしまったり。独身の友人には悩みが分かってもらえないし、ある時期は誰とも話が合いませんでした。

編：近所のおばさんに「お子さんは？」なんて聞かれると、何と答えてよいのか情けなくなってしまいます。

立花：そんなのしょっちゅう！でもある時、これも挨拶の一つだと思ったら、気にならなくなりました。その内、少しずつ自分の居場所を見つけはじめたんです。夫婦仲良くすることに喜びを感じたり、旅行に行ったり、将来生かせるものを学んだり、ちよとずつ努力してきました。でも自分の生活をエンジョイしだすと、今度は人に、「自由でいいなあ」なんて言われて、嫌になっちゃいますよ。ですから周りに振り回されないことが大事だと分かってきました。

編：自分に満足していくということですか？

立花：そう、人と比べないで。私は総合的に見て人は平等だと思います。以前、神父様から伺った

んです。人はそれぞれ十字架を負っていかなくてはならない。毎朝起きると、やらなくてはいけないこと、嫌なことがたくさんある。それらマイナス(十字架)から逃げることもできるけれど、一つ一つマイナスを受け止めていくことでプラス(喜び)に変わっていく。どの家庭も、一見、何の悩みもなく幸せそうに見えても、何か問題を抱えていて、努力していると思います。子供がいてもいなくても、夫婦がお互いに生かしあえる関係って素敵だと思うんです。どのような環境にあっても現実を受け入れ、そんな自分に自信を持っていくことが大切なような気がします。自分を磨くのも良いし、子供のため、家族のために尽くすのも良いし。

編：つつい周りが気になってしまっていたけれど、夫婦や家族に一定の型があるわけではないんですね。周りが、ある特定の型にはめようとするのに振り回されずに、私達も独自のスタイルを見つけていきます。何が問題なのか、見えてきたような気がします。



©シモン中村

立花：私達もまだこれからもいろんなことに直面すると思いますが、夫婦二人、お互いに信頼して歩んでいきたいと思っています。そうして味のある夫婦になっていきたいと思っています。

編：味のある夫婦、私達も是非そうなりたいです。今日はありがとうございました。

?????

シリーズ②

それって本当？

栗本昭夫

蹟を起り得るものとしています。通常、創り主である神は、その意志により天地万物を自然法則の様式によって統治されています。しかし、神はある時ある目的によって特別に、ご自分の自由意志で、自然法則とは違った様式で、そのものの存在を望まれます。これを奇蹟とっていいでしょう。ですから奇蹟は、神の意志が自然法則を通さず、直接にそのものに及ぶ時に起きるといえます。

では何を奇蹟というのでしょうか。まず、はっきりと誰の目にも、その変化が確認されないと奇蹟とは認められません。個人的体験などではその信憑性が問われます。また何のためにそのような異常現

象が起り得たのか明確でないと意味がありません。奇蹟は何の目的も無く、どこかで偶然に起こるものではありません。歴史上でも、人々の懇願に、神が応えて行われた奇蹟が数多くあります。その場合、その現象が真に奇蹟に値するものか否かは、それぞれ多くの医師、科学者、神学者達が時間をかけて調査して、決定されます。現代でもフランス南西部にあるルルドの泉では、百年も前から病の癒しの奇蹟が起り続けています。

このように考えると、福音書に記されている奇蹟のほとんどは、イエスがメシア(救世主)であることを信じさせるために、主イエス自身が自由に行われたと言えるでしょう。そしてその奇蹟を、私たちは、自分なりに解釈して心の糧とすればいいのです。



現在のカナ

©シモン中村

きせき 奇蹟

ヨハネ福音書の2章(1節~12節)に、イエスがカナで行われた結婚式の披露宴で、水をぶどう酒に変えられた奇蹟(跡)のことが記されています。そのほかにも福音書にはイエスのなされた数多くの奇蹟が記されています。奇蹟とは起り得るのか、一体何なのか、どう理解したらよいのか、疑問は多いと思います。

キリスト教では次のように考えて、奇



聖フランシスコ・ザビエル

貴族の息子

フランシスコ・ザビエルは1506年4月7日、スペイン北部、バスク地方のナバラ小王国にあるザビエル城に、ナバラ王に仕える城主ジュアンと信心深い母マリアの6番目の末っ子として生まれました。ザビエルが9歳の時、ナバラ王は戦いに敗れ、その後父ジュアンも亡くなり、生活は苦しくなりました。19歳になるとザビエルは、学者として名声を得るため、当時ヨーロッパで最高といわれたパリ大学へ旅立ちました。

イグナチオとの出会い

ザビエル22歳の時、後にイエズス会を創立したイグナチオ・デ・ロヨラと大学の寮で同室になりました。同じバスクの貴族でありながら、二人は対照的でした。37歳のイグナチオは、清貧を旨とし、一生をキリストに捧げる決心を固めていました。一方、15歳年下のザビエルは、すでに学位も取り、スポーツを好む青年貴族でした。

そんなザビエルにイグナチオは、「たとえ全世界を手に入れても、自分の生命を失ったなら、なんの益になろうか」(マタイ、16章26節)と熱っぽく語り掛けました。その言葉に打たれたザビエルは、やがて、1534年8月15日、7名の同志と共にパリ、モンマルトル聖堂で誓い合い、ここにイエズス会が誕生しました。

編集後記

西暦1000年代も最後の年となりました。皆様はどんなスタートを切られましたか。私たち編集局は新しいメンバーも増え、「楽しく」をモットーに頑張っています。楽しいと言っても、単に娯乐的ではなく、楽しいと感じることを目指しています。原稿を書く、そのために調べる、話し合うなどの作業はいつも楽しいとは限りません。さまざまな意見が出てまとまらないこともあり、先が見えなくてハラ

日本史の授業で習った聖フランシスコ・ザビエル

—キリスト教を伝えたあの宣教師は、私たちの指導司祭と同じイエズス会なので—
ザビエル来日450周年記念特別企画

世界へ

イエズス会の修道者たちは従来のように修道院内に留まらず、キリストの言葉を伝えるために全世界へ出て行きました。喜望峰航路の発見、マゼランの世界一周と世界が広がり、ルターの宗教改革でカトリック教会に危機感があった当時の歴史の流れに、この方針は合っていました。

ザビエルは1542年にインドのゴアに派遣され、五年ほど宣教活動をするうちに、マラッカで、初めて日本人に出会いました。彼らは、日本で罪を犯して逃れてきた、ポルトガル語を少し話すアンジロウたち三人でした。罪に悩むアンジロウに、ザビエルはキリストの教えを語り、1548年5月、ゴアで三人に洗礼を受けました。

ジパングへ

三人との交流から、未知の国であったジパング(日本)での布教の意義を確信したザビエルは、三人と司祭たちを伴い、1549年4月ゴアを出発、同年8月15日、鹿児島に着きました。そして海外貿易を目指す領主、島津貴久の宣教許可を得るとすぐに、片言の日本語で布教を始めました。やがて、約100人が洗礼を受け、日本初のキリスト者の共同体が誕生したのでした。

京都へ山口へそして大分へ

ザビエルは、その後、日本全国での布教許可を直接天皇から得るために、平戸、山口を経て、1551年1月、京都に入りました。しかし、都は応仁の乱で荒れ、献上品を持たない粗末な格好のザビエルは、天皇と会うこともできませんでした。

そこで今度は服装を整え、献上品を用意して再び山口の領主、大内義隆を訪れ、布教活動と、日本で最初の教会建設許可を得たのでした。

その後、ザビエルは大分に招かれ、後

ハラもします。でも、何よりも「一人一人」が自分を自由に出せることを大切にしている場として、●neの編集作業が私は大好きです。それを楽しみと感じます。完成の喜びはもちろんですが、作り上げるプロセスの中で経験した一つ一つが私たちそれぞれの宝となっています。皆さんも自分の感じ方で、この●neを少しでも楽しんでいただければ幸いです。

(新井 N)

に代表的なキリシタン大名となる大友宗麟と親しく交わりました。

新たな旅立ちへ

日本が中国を手本にしていると感じたザビエルは、中国での布教を目指し、1551年11月、日本を離れ、ゴアで準備を整えた後、1552年8月下旬に広東沿岸の上川島に上陸しました。しかし、鎖国状態の中国本土には渡れず、同年11月、病に倒れ、12月3日、46歳の生涯を閉じました。1622年3月12日、聖人の列に加えられました。

聖フランシスコザビエルと私たち

二年という短い滞在期間に、ザビエルは日本に大きな足跡を残しました。彼がいなかったら、日本にキリスト教が伝わるのが遅れたことでしょうか。そして、私たちの聖イグナチオ教会も、存在したでしょうか。新しい教会には、水を湛え、日本的な雰囲気のザビエル聖堂という静かで小さな聖堂があります。ザビエルと私たちは、450年という年月を越えて、直接結ばれているのです。



聖イグナチオ教会ザビエル聖堂

来日450周年大ザビエル展

1999年6月10日(木)―7月20日(火・休)

池袋・東武美術館にて開催予定

編集参加者(五十音順)

新井 康/直子	福富 達夫
内田 京子	藤枝 香織
北見 義弘/弘美	満尾 佳子
城間 正人	森本 亜希子
鈴木 肇/庸子	柳谷 晃子
武田 伸子	山本 浩
玉木 健太郎/泉	山本 洋子

発行 聖イグナチオ教会 ●ne編集局
(担当/城間 正人・鈴木 庸子)

ご意見・記事投稿・アンケート返送は下記までお願いします。

〒102-0083 東京都千代田区麹町6-5

聖イグナチオ教会 ●ne編集局

TEL : 03-3263-4584

FAX : 03-3263-4585

URL: <http://www.ignatius.gr.jp>

この冊子は再生紙を使用しています

教会からのお知らせは別紙になりました。皆さん、冷蔵庫にでもはっておいてね!!